

## 明治大学連携講座「身近な薬用植物と健康」

平成 26 年 5 月 10 日

5/10（土）明治大学との連携講座「身近な薬用植物と健康」を開催しました。

現代病（文明病）には機能性ディスペプシア（FD：以前は慢性胃炎と呼ばれた）、糖尿病、高血圧、認知症などが知られています。本講座では、これら疾患に使われる漢方薬にどれだけ身近な薬用植物が使われているのかを説明いたしました。例えば、ストレスが主な原因で起こる FD に、オケラの根茎、カラスビシャクの塊茎、ウンシュウミカンの果皮、ナツメの果実、ショウガの根茎などから成る六君子湯が、また糖尿病性末梢障害（しびれ）にはオオバコの種子、ヒナタイノコズチの根、ポタンの根皮、ヤマノイモの根茎、ニッケイの樹皮、サンシュユの果実などから成る牛車腎気丸が使われます。なぜ中国の医学（中医学）が日本に伝来し独特の漢方医学として根付いたのかの理由として、中医学が身近に存在する植物を最大限に取り入れたことと（東洋思想に基づく）、中医学発祥の地である江南の山地、長江流域と日本西南部はクスノキ、カシ、タブの木などの照葉樹林の森およびその周辺に自生する多くの植物が共通（あるいは類似）していたことが上げられると思います。本講座では、会場にたくさんの身近な生薬を展示しました。参加者の多くが漢方薬を身近なものとして感じたと思われます。



## 平成 26 年度「夏休み親子薬草教室」

平成 26 年 8 月 9 日

8/9（土）中野キャンパスにて、小中学生の親子を対象に「夏休み親子薬草教室」を開催しました。始めに帝京平成大学薬学部 石井竹夫准教授より、薬草として利用している植物が、中野区周辺で日々身近に見られることを紹介しました。続いて、小学生に向けてラミネートを使った押し花、押し葉のしおり作り、中学生に向けて台紙を使った薬草の標本作りを体験していただきました。小学生の皆さんは、しおりに使う押し葉の葉脈標本を作るのが大変面白い様子で、色を付けてくっきりと浮かぶ葉脈を見て、とても目を輝かせていました。中学生の皆さんは、ピンセットやはんだごてを使って、薬草標本の細かな作業を丁寧に進めると同時に、薬草の名前や効用について学んでいました。皆さん時間を忘れて夢中になって作業を進めており、各々で綺麗なしおりや薬草標本を作製していました。

今回の作業を通して、参加者からは、夏休みの自由研究の参考になった、薬草や自然に対する関心が高まったなどお声をいただくことができました。多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。



## 第2回区民講座

平成26年11月1日

平成26年11月1日（土）、帝京平成大学中野キャンパスにおいて、第2回区民講座を開催しました。この区民講座は本学部の中野キャンパス移転を契機に、大学から区民（一般市民）への情報発信の一環として、中野区薬剤師会との共催、中野区後援のもと、昨年から開催しています。わが国は超高齢化社会が到来しています。高齢者は一般的に生理機能が低下している一方で多くの薬剤を服用しており、副作用発現の可能性も高くなっています。そこで本年は、「高齢者と生活習慣病治療薬の正しい使い方」をテーマに取り上げ、老年病科医師との共同研究も多い、本学部の清野敏一教授に講演をお願いしました。また、講演終了後には、中野区薬剤師会による「お薬相談」が1階正面玄関ロビーで開催され、5つの相談ブースとも盛況で多くの相談者が訪れていました。本講座は毎年1回の開催を予定しており、来年も「正しく知って、賢く使おう」シリーズでテーマを考えています。



清野 敏一教授



中野区薬剤師会による『お薬相談』

## 【明治大学連携講座】現代病に対する薬用植物・漢方 —漢方療法の基になる薬用植物と東洋思想を学ぶ—

平成 26 年 12 月 6 日

12/6（土）中野キャンパスにて明治大学リバティアカデミーとの連携講座「現代病に対する薬用植物・漢方—漢方療法の基になる薬用植物と東洋思想を学ぶ—」を開催しました。

今回の講座は、今年 5 月に開催しました明治大学連携講座「身近な薬用植物と健康」の好評を受けまして、薬学部 石井竹夫准教授による、薬用植物・漢方の第 2 回目の講座として開催されました。

今回は、前回から更に専門的な内容に踏み込み、うつ病、慢性胃炎、アトピー性皮膚炎等の現代病に対して、漢方薬がどのようにアプローチしているかについて、具体的な症例をもとに説明いたしました。また、漢方療法の背景にある東洋思想（陰陽五行論）についても、アニメ等の身近な例でわかりやすく紹介し、陰陽五行論を根拠とする中医学では、症例をどのように診断し、どのような治療法を導き出すのかについて、論理的に説明いたしました。

前回好評の生薬の標本展示は、今回の講座に合わせて、現代病に用いられる生薬がテーマの展示となりました。参加者の中には具体的な質問をされる方も多く、担当の薬学部学生も熱心に説明しており、参加者の皆様と豊かなコミュニケーションを取ることができたようでした。

今回も多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。



石井 竹夫 准教授



生薬標本の展示の様子